



### 神さまの思い

「一人の命が女性の胎に宿り、めでたく日の目を見てこの世に誕生し、両親の愛のもとで健やかに成長する。」言葉ではいとも簡単に言うことができますが、それが当たり前でないことはここで私が言うまでもありません。熊本に慈恵病院というカトリックの病院があり、そこに「このとりのゆりかご」というものが設置されているのをご存知でしょうか。そこには常時温められた保育器が設置され、親御さんが様々な事情で赤ちゃんを育てることができない場合、保育器に置くか、あるいはインターフォンを使って病院側と赤ちゃんの今後を相談することができるようになっていました。今日本で一年間に誕生する赤ちゃんの数は約97万人。妊娠中絶による「望まれない命」は約18万人に上ると言われます。「私たちは生みの親から捨てられ、また殺される赤ちゃんを保護する必要があります。憤りを感じることもありました。『神の子』を預かるのだと考えることにしています」とは副院長の蓮田先生の言葉。赤ちゃんを育てられない理由、またやむを得ず中絶を選ぶ理由には生活困窮や未婚、世間体の問題などいろいろあるでしょう。お腹に宿った命、それは「親のもの」だから、親の考えでどうにかする。そんなふうに考えられていることが多いし、法的にそうなのかもしれません。でも、私たちは授かった命、私たちとは別個の命の尊厳をもう少し深く考えてみる必要があるでしょう。イエスさまの時代、ユダヤ人の両親は子を授かると、男の子は生後40日、女の子は生後80日して神殿に連れて行き、神さまの御前で、「神さま、この子はあなたの子、あなたからの授かりものです。私どもはあなたに代わって、この子が一人前になるまで精一杯育ててあなたにお返ししますので、どうぞそのための力を与えてください」と祈ったのだそうです。美しい祈りであると同時に考えさせられる言葉だなんて思います。確かにこの子は私たちの子、我が子なのですが、我が子であると同時に、いや我が子である前に神さまの子であり、だからこそ、神さまからの授かりもののだと言うんですね。無力な赤ちゃんとしてお生まれになったイエスさまがこのクリスマスもこの世に生を受けたすべての赤ちゃんのためにこの真実を訴えておられます。

日	月	火	水	木	金	土
						1 創立記念日 休園
2	3	4 お茶教室	5 英語教室	6 体育教室	7	8 創立記念日
9	10	11 お弁当 リハーサル	12	13	14	15 クリスマス会
16	17	18 粗食 誕生会	19 キャンドルサービス 終業式	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

### お知らせとお願い

- ・各クラスにお弁当を温める温蔵庫を用意しますので、温め可能なお弁当をお持たせください。  
生野菜・ゼリーは別容器でお願いいたします。
- ・幼稚園の絵本の貸し出しですが、各クラス毎回貸し出し用のノートに記録することになりました。借りた本は必ず、借りた次の日に返すようご協力お願いいたします。
- ・クリスマスリハーサルと当日は、女の子は白タイツ・男の子は長めの白ソックスでの登園をお願いします。
- ・1月8日の始業式は11時降園です。詳しくは後日お知らせいたします。